

## 第2節 これまでのごみ処理の評価

循環型社会構築に向けた3R指標及び地球温暖化防止に向けた環境負荷の指標に対し、目標値の進捗状況は表2-4のとおりです。

### (1) ごみ総排出量

平成26年度の実績では、基準年度から6.89%削減の66,922tとなっており、目標値に対して6,434tの削減が必要な状況でした。平成27年度については、平成27年4月からの家庭系ごみ有料化などの施策により、家庭系ごみの削減が図れましたが、事業系ごみは分別徹底や多量排出事業所による生ごみ資源化などによる削減効果が見込めず、目標値を達成することができない状況です。

### (2) 資源化率（リサイクル率）

平成26年度の実績では、基準年度から1.9ポイント増加しており、人口10万人以上の市町村の中で、全国トップレベルとなっています。これは、容器包装プラスチックなど新たな分別収集の浸透や、分別に対する市民の協力による結果と考えられます。平成27年度については、家庭系ごみ有料化などの施策により、ごみの総排出量の減少と容器包装プラスチックをはじめとする資源物のさらなる分別が見込まれることから、目標値を達成することが想定されます。

### (3) 焼却量

平成26年度の焼却量は、平成25年度に比べて約660トン増加しましたが、これは家庭系ごみ有料化実施前の駆け込み排出の影響によるものと考えられます。

平成27年度については、家庭系ごみ有料化などの施策により、平成26年度に比べて約2,400トンの削減が図れましたが、新たな減量・資源化方策や事業系ごみの削減施策が当初見込んだ削減効果を達成できなかったことから、基準年度から20.46%削減の34,882tとなり、目標値に対して約5,000トン削減の達成が図れませんでした。

ただし、この数値には年度前半に焼却した有料化実施前の駆け込み排出分が含まれているため、収集量と持込みごみ等から試算し、平成27年度のごみ焼却量は32,928トンと推計しています。

### (4) 温室効果ガス排出量

平成25年度の実績では、基準年度から8.28%削減の13,867t-CO<sub>2</sub>となっています。平成27年度については、「ごみの総排出量」や「焼却量」が目標値に至らなかったことなどから、目標を達成することができない状況です。

表 2-4 第2次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画ごみ処理基本計画  
(中間見直し)再構築における目標と進捗状況

	項目 (目指す方向)	基準年度	実績値			目標値
		平成 15 年度	平成 25 年度 【基準年度比】	平成 26 年度 【基準年度比】	平成 27 年度 【基準年度比】	平成 27 年度 【基準年度比】
3 R 指標	ごみの 総排出量 (-)	71,873t	66,004t 【8.17%削減】	66,922t 【6.89%削減】	—	60,488t 【約16%削減】
	資源化率 (リサイクル率) (+)	46.3%	48.4%	48.2%	—	約50%
	焼却量 <sup>※1</sup> (-)	43,855t	36,622t 【16.49%削減】	37,284t 【14.98%削減】	34,882t 【20.46%削減】 駆け込み増量分 除く推計 <sup>※4</sup> 32,928t 【24.92%削減】	29,923t 【約32%削減】
環境 負荷 の 指標	温室効果ガス 排出量 <sup>※2</sup> (-)	15,119t-CO <sub>2</sub> (平成 20 年度)	13,867t-CO <sub>2</sub> <sup>※3</sup> 【8.28%削減】	—	—	11,584t-CO <sub>2</sub> 【約23%削減】

- ※1 焼却量は、市内及び市外焼却施設での焼却分を対象としています。(不燃残さの焼却分を除く)  
平成 15 年度の焼却量には、市施設・市清掃に伴う数値を含みません。
- ※2 環境省策定の「ごみ処理基本計画策定指針(平成 20 年 6 月改定)」にて、地球温暖化防止の観点から温室効果ガスの排出量の削減について配慮するよう求められていることから、「第2次鎌倉市一般廃棄物処理基本計画ごみ処理基本計画(中間見直し)」において追加しました。
- ※3 温室効果ガスの算定は、市が委託等により把握している収集運搬、資源化処理について計算しています。平成 20 年度における温室効果ガス排出量の推計は、笛田リサイクルセンターなどの中継施設から資源化・処理施設までの運搬時(二次輸送時)に発生する排出量を含んでいないため、平成 25 年度の排出量においても除外した値を使用しています。
- ※4 平成 27 年度における家庭系収集量実績 20,092t 及び事業系ごみ収集量実績 10,892t に、持込み量推計 1,944t(平成 24 年度から平成 26 年度までの持込み平均)を加算して焼却量推計値 32,928t(駆け込み増量分を除く)を算出しました。